

特集：大学説明会

学生による大学説明 ―授業―

棚瀬 佑果（筑波大学 生物学類 3 年）

今年夏に行われました大学説明会。学生による体験談ではトップバッターとして私、生物学類 3 年の棚瀬佑果が説明をさせていただきました。そのときに、発表した内容をこの場を借りて振り返ってみたいと思います。お付き合いくださる方、よろしくお願いいたします。

まず、高校生と大学生は何が違うのか？高校の授業と大学の授業はどんなところが違うかについて簡単に説明しました。

大学の特徴として、

- ① 授業の選び方は自分次第
- ② 必要な条件を満たさないと卒業できない
- ③ 単位が取れる授業の形式は 3 種類（講義・実験・実習）

の 3 点を挙げました。

高校の時は、学校から与えられた時間割に沿って受けている人が多くかと思われます。でも、大学は違う。自分でどの授業を受けるか選ぶことが出来る自由に学ぶことが出来る場所です。ただ、授業に出ればいいわけではありません。先生から与えられた課題をクリアしなければ単位を得ることは出来ません。自由に楽しいけれど、少しシビア。大学はそういう場所なんだよということが伝われば幸いです。

大学の基本知識について触れたところで、生物学類の 4 年間の流れについて触れました。

1 年生の間は、英語や体育をはじめとする必須科目。また、生物学の基本知識について触れる概論等を主に勉強します。いわば、広く浅くという感じ。1 年生の終わりにコース分けがあり、2 年・3 年で自分の興味のある分野についてより専門的な授業を受けていきます。そして、4 年生になると卒業研究に入っていきます。（卒業研究については 4 年生の鈴木さんが説明してくださいました。）

これらについてより具体的に知ってもらうために恥ずかしながら私の時間割を基に説明します。

その前に筑波大学の時間割について。下図のように 1 コマ 75 分。授業間の休み時間は 15 分となっています。2 限～ 3 限間に昼休みがあり、午後に授業がある学生の多くは食堂や空き教室などで昼食をとります。

8:40 -9:55	10:10 -11:25	昼 休 み	12:15 -13:30	13:45 -15:00	15:15 -16:30	16:45 -18:00
---------------	-----------------	-------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

休み時間の 15 分。長いんじゃないの？とお思いの方がいらっしゃるかと思います。移動も含めての 15 分間、そんな悠長なこと言っていないかもしれません。例えば、生物学類の授業の多くが開講さ

れている第 2 エリアから英語の授業があれば第 1 エリア・外国語センター、体育があれば体育館・テニスコートに大移動です。大丈夫、大変かもしれないけれど慣れればどうってことはありません。そして、慣れたことには大移動することも少なくなっていくます。

それでは、1 年生の時の時間を見てみましょう。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	遺伝子を作る文明	情報処理 (実技)	生態学概論	テニス	英語Ⅲ
2	自然人類学	情報処理 (実技)			教育心理学
3	動物生理学概論	英語Ⅱ		英語Ⅰ	物理学Ⅰ
4		発生物学概論	クラスセミナー	物理学Ⅱ	
5	物理学実験		現代資源の課題	化学Ⅰ	基礎生物学実験
6			現代資源の課題	教職	

オレンジで塗ったところが必須科目です。へ学概論がいくつかありますね。これが、先程言いました生物学の基礎授業です。その他にもテニス（体育）、英語Ⅰ～Ⅲがあります。英語はレベルでクラス分けされています。自分のレベルにあった授業が受けられるのは嬉しいですね。そして、金曜日の午後には基礎生物学実験があります。1 年生の時から毎週実験をしてレポートを書いています。

そして筑波大学特有の授業で言えるのではないかというのが月曜 1・2 限。総合科目の時間です。総合科目は生物を超えて自分の興味のある分野を選択して授業を取ることが出来ます。どの学類で開講されている授業でも他学類生を対象にしているものが多く、気軽に参加することが出来ます。ちなみに生物学類では「遺伝子を作る文明」を開講。

じゃあ、青で塗ったところは何でしょう？これは、自由科目です。別に取ってもいいし取らなくてもいい授業。物理・化学の苦手な私も頑張って取ることが出来ました。はい。

最後に赤で塗ったところが教職になります。学校の先生を目指す方はこれらの授業も取っていかなければならないので、教職を取らない人に比べれば多くの授業を取っていかなくてはなりません。ちょっと大変です。

入学して1年たって2年生になりました。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	動物生理学Ⅰ	機能微生物学Ⅰ	代謝生理学Ⅰ	発生生物学Ⅰ	動物制御学Ⅰ
2	微生物学Ⅰ	テニス	生物化学Ⅰ	細胞生物学Ⅰ	生体機能分子学Ⅰ
3	前期: 動物系統分類学実験Ⅰ 後期: 応用生物学実験Ⅲ	前期: 動物系統分類学実験Ⅰ 後期: 応用生物学実験Ⅲ	分子生物学Ⅰ	前期: 植物系統分類学実験Ⅰ 後期: 応用生物学実験Ⅲ	前期: 植物系統分類学実験Ⅰ 後期: 応用生物学実験Ⅲ
4			専門語学		
5					
6					

2年生になってもオレンジが残ります。体育は相変わらずあります。さて、1年生のときには週3でありました英語の時間がなくなりました。そして、新しくある科目が増えます「専門語学」。英語の生物に関する論文を読んだり、生物学にまつわるエッセイやジャーナルを読んだり…担当する先生によって多少やることは変わりますが、生物学に関する英語に触れ合う時間になります。ちなみに、3年生になると専門語学の時間は週2に増えます。そして、2回のうち1回は完全に英語、教室内での意見の発表などすべてが英語になります。英語が苦手な方でも頑張れます。頑張ろう！

2年生からの生活についてですが、よく見ると午前中（1・2限）に講義、午後（3～5限）に実験とある程度時間割が固定されます。1つの実験は大体週2で行われ約5週間（半期）で行われます。前ページの時間割を見ていただければわかると思いますが、この学期では、実験を合計3つ取っていました。

よく理系だと学年が上がるごとに忙しくなると聞きますが、専門科目を2・3年で履修する生物学類ではそんなことはありません。（前ページで提示した時間割が埋まっていたのは1例です。）

その証拠に3年生になってからの時間割がこちら。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	生物活性学Ⅰ	ゲノムⅠ			
2	博物館学Ⅰ	専門語学	寄生生物学	教育基礎学Ⅰ	放射線生物学
3	博物館学Ⅰ		動物系統分類学Ⅰ	前期: 生体機能分子実験	前期: 生体機能分子実験
4			専門語学		
5					
6					

2年生時に比べてスカスカになってしまいました。専門科目は2年生から取っているので大きくは変わりません。ここで注目していただきたいのが、復活しましたピンクで塗られましたマス。生物学類では教職の他にもう1つ資格を取得することが出来ます。それが、このピンクのマスに関わる学芸員です。教職に比べ資格の取得は比較的容易であることもありまして2年の3学期

から資格取得に向けた履修を始めました。（早い人は、2年の1学期から履修を始めています。）

ここまで学期内に行われる授業について簡単に説明させていただきました。最後に、長期休暇内にある集中授業と実習について簡単に説明して終わろうと思います。

まず、集中授業について。学期内の授業というのは、毎週決まった時間（例えば、水曜日の3限目）に授業を受け、レポートやテストなどの課題をこなすものですが、集中授業は少し異なります。たいていは2日間、朝からひたすら同じ先生の講義を聞き続けます。簡単に言うならば、普段の授業を2日で一気にこなしてしまうというイメージです。

そして、実習。これは、普段の実験と異なり、菅平や下田の実験センターへ泊まり込んで、5泊6日でひたすら実験や採取・観察をするものです。

私は、下田臨界実験センターにしか行ったことがないので、そちらの写真ばかりになってしまうのですが、写真を見ながら様子が伝われば幸いです。



動物系統分類実習では、磯での採取以外に船に乗ってプランクトンネットで採取をしました。採取の他はひたすら採取した動物の観察および同定です。今まで見たことのない動物群をはじめとした生物づくりの1週間を過ごしました。



左図は採取した稚ウニ。

右図は、発生学実習で用いたムラサキウニ。



発生学実習では、海産生物を用いて発生の実験・観察を行いました。普段の生活では、授業やバイト等々でゆっくり生物に向き合える時間が少ないので、このような時間はとても有意義でした。また、今まで教科書や参考書で見たことがあるだけの実験を実際自分の手で行うことも出来ました。

ひたすらウニの発生についてだけ、考えていけばいいのですから、こんなに嬉しい時間はないですよ。

色々な発生段階が観察できたタコノマクラの発生。



そして、実習の番外編として、最後に紹介させていただいたのが、公開実習についてです。



私自身、2年の夏に他大学の公開実習に参加してきたので紹介しようと思いました。

他大の公開実習は、連絡事項が張り出されている掲示板で紹介されており、1回目の参加は単位

の取得が認められます。筑波大学の実験センターの設備はとても素晴らしいので、他大学のセンターは物足りないかもしれませんが、筑波大学だけでは得ることが出来ない体験得られたことや、他大学生と触れ合うことが出来たというのはメリットかもしれません。



ざっとでしたが、生物学類生が受けている授業については以上になります。長くわかりにくい文章になってしまったかと思いますが、最後までお付き合いくださりありがとうございました。

Communicated by Takeo Hama, Received August 25, 2010.